

あおぞら

発行：愛知県被災者支援センター

住所：名古屋市中区三の丸 3-2-1

愛知県東大手庁舎 1階

TEL：052-954-6722

FAX：052-954-6993

開館：月～金 10～17時



お米支援贈呈式 報告

日 程：1月13日（金）10:30～12:00

場 所：JA あいち経済連 パールライス名古屋工場
(弥富市内の精米工場)

参加者：飛島村、生産者、愛知県への避難者、
生活協同組合 コープあいち、愛知県
被災者支援センター

飛島村より100俵のお米を、愛知県に避難されていらっしゃる避難者の方にお届けしたい、というお申し出を受けました。そこで愛知県被災者支援センターが飛島村よりお米の提供を受け、生活協同組合 コープあいちのご協力を得て、愛知県受入被災者登録制度で登録されている世帯（2011年12月末現在）に届けることになりました。

10kg 詰の袋に入ったお米がたくさん積まれた前で、関係者が見守る中、贈呈者・飛島村村長と避難者2世帯が代表して贈呈式が行われました。屋外での式典に引き続き、屋内で皆さんの交流会を実施しました。

初めに村長が、52年前の伊勢湾台風の被害、3か月間避難の実体験を涙ながらにご披露されました。伊勢湾台風では、名古屋市の「堀川」から西側は飛島村の辺りまで、大被災地だったのです。村長は当時12歳で、3か月間避難先を転々としたとのこと。

次に、避難者の方が、「避難の体験談」をお話しされました。「私たちが何か悪いことでもしたのでしょうか」、「故郷に帰りたいが村に残ると孫が来られないので会えなくなる。でも帰りたい。答えが見つからない」、「放射能が濃くなって町から子どもがいなくなった。被災地に残っている両親とは電話の度に泣いてしまう」などのお話しがされました。

次に生産者の方々が、次々に感想を述べられました。「直にお話が聞けて何よりでした」、「今後も何かできることがあれば、できる限りのお手伝いをします」と、涙ながらに感想や支援の決意を述べられました。高齢者の生産者は、伊勢湾台風のご自分の体験も述べられました。若い生産者は「伊勢湾台風は親から聞いていた。今度のことはテレビで見て知っていたつもりだったが、直にお聞きして何倍もの衝撃を受けた」などの感想を仰いました。

最後に、当センターの非常勤スタッフで「コープあいち」の向井から、来週から避難者全員に事前にお電話をして、1世帯ずつお声を拾いながらお届けします、とご挨拶して交流会は終了しました。

形式的な式で終わらずに、支援者とそれを受ける側の双方が、心からの交流ができて何よりの贈呈式となったと思いました。



愛知県被災者支援センター募る

「避難生活で感じた思いを、手紙に書いてほしい」。愛知県被災者支援センターが、東日本大震災で愛知県に避難してきた人たちに、こんな呼びかけをしている。集まった手紙は冊子にして配る予定だ。故郷を離れて暮らす寂しさを抱え込まず、分かち合ってほしいと願う。

手紙を募るきっかけは、昨年11月に支援センターに届いた一通の手紙だった。送り主は、6月末に栃木県那須塩原市から親子4人で自主避難し、愛知県小牧市のアパートで暮らす井川景

井川さんの手紙の要旨 6月末、4歳と0歳の娘を連れ、私たちは栃木県から引っ越してきました。放射能から逃げるためです。自宅が福島県との県境で、数値が高く、主人と話し合い、悩んで決めたのです。

初めは「頑張ろう」と勢いでやってこられたのですが、最近、心に穴が開いたように寂しくて、つらくて。被災者の集いに行ってみようかと思いましたが、東北の方々と比べたら、私の苦労なんて小さいもので、恐縮して出向けません。私の周りには今、話せる人もいません。

でも頑張ります。娘は「愛知県では、外でたくさん外で遊べる」と言います。寂しいですが、ここで生きていきます。

心に穴が開いたように寂しくて…

避難の思い伝えて

栃木の女性「手紙で楽に」



れる「汚染状況重点調査地域」に指定されている。井川さんは「放射能のある所から来た」と知られるのが嫌で、周囲に「転勤」と説明してきた。それで、避難のつらさを誰にも話せなかった」と話す。

「手紙を書いて元気になった」と話す井川景子さん。5歳になる長女美海（みみ）ちゃん（左）と次女愛乃（のの）ちゃん（1）もうれしそうだ＝愛知県小牧市

き出したら、気持ちが楽になった」と笑顔も戻った。支援センターは昨年6月の発足以来、「避難者を孤立させまい」と県内各地で交流会を開いてきたが、参加しない人をどう支えるかが大きな課題だった。担当者は「気が引けて交流会に出られない人でも、手紙なら思いを語れるのではないか」と考えた。

「気持ちを同じ境遇の方に伝えてみませんか」。井川さんと呼びかけ文を書いてもらい、12月、愛知県に避難者登録をしている約500世帯に手紙募集の案内を送った。手紙は匿名にして冊子にまとめ、避難世帯に送る。支援センタースタッフの滝川裕康さん（63）は「手紙が交流会への出席につながり、友人関係を築くきっかけになれば。避難者登録をしていない人も手紙を寄せてほしい」と話す。

締め切りは31日。形式は自由で、氏名、現住所、出身県、電話番号、メールアドレスを明記。送付・問い合わせ先は、愛知県被災者支援センター（〒460・0001 名古屋市中区三の丸3の2の1、052・954・6722）。

（黄瀬）

2012年 1月 5日 朝日新聞 夕刊（朝日新聞社の許諾を得て転載しています）

//// お手紙を 2月15日(水)まで延期して、引き続き募集します! ////

昨年末に臨時便で呼びかけをさせていただきました、「お気持ちを手紙にしてください」にお応えいただき、多くの方がお手紙を寄せてくださいました。ありがとうございました。手紙にはいろいろな思いや気持ちが書きしたためられていました。

より多くの方に書いてもらえないかと、当初 1月31日（火）を締切としていましたが、期日を延ばして 2月15日（水）までさらに「お手紙」を募ることにしました。

また、手紙を書くのは難しいけど、「気持ちを告げたい」という方もいらっしゃるのではないかと、スタッフがそのお気持ちを聴きにおうかがいすることも考えました。

お話しをすることで気持ちが軽くなることができ、手紙に替えて発表することで共感を得ることができたりします。お気軽に愛知県被災者支援センターまでご相談ください。

〒460-0001 名古屋市中区三の丸 3-2-1 東大手庁舎 1階

TEL : 052-954-6722 FAX : 052-954-6993

E-mail : mousikomi@aichi-shien.net

先日、「お気持ちを手紙にしてください」と呼び掛けをさせていただき、早速お手紙を寄せてくださいました。一部抜粋したものを掲載させていただきます。

...

74 才になり、助かった事は、神様がもう少し生きると云う事かなと、何か私の出来る事をなさいと云う事なのかと、人の世話にならず人を世話しなさいと良く母の言葉が身にしみます。

...

来年は、楽しい思い出が作れるよう新しい事にちょうせんしようと思っています。

生きていることに感謝し、1 日 1 日を大事にしていこうと思います。

...

...

先日は、聖霊中学校の皆さんが寒さにもかかわらず、お骨折なされて、石油ファンヒーターをお買い求められて、私の元にお役所の方が届けてくださりまして、誠に恐縮に存じ上げます。お陰様で毎日暖かい思いをして、風邪を引かないでいます。

ほんとうに瀬戸の方々の真面目な行動力には深く感銘致しました。

...

内閣総理大臣さま、政治家の皆さま

...

未来を担う子供たちが病気にならずに、かつ健全な心で育っていけるよう、早急に、一刻も早く対策をとり、実行していただきたくお願い申し上げます。

...

孫より贈られたターシャ・チューダの本に、「身の回りのちょっとした出来事の中にある大きな喜びに目を向けてみると人生ってすごい冒険だと思わずにはいられません。生きている事を楽しんで…」と言う言葉に、これから残された人生を「生きていて良かった」と思える様、しっかり生きて行こうと思っています。

...

...

息子はこちらに来た時、生後 9 ヶ月でした。

それが今では 1 歳 6 ヶ月になり、避難している間に歩けるようになり、少しずつ言葉が出るようになり、ますます可愛い頃となりました。

1 ヶ月振りに会う主人に向かって「パパ!」「パパ!」と喜んでくっついていく姿を見ると、涙がこみ上げます。

主人のご両親は千葉のホットスポット在住です。会いに行くことがためられ、まだ義両親の元へは、一度も帰っていません。

孫の姿も見せてやれないなんて、嫁として最低だなァとため息が出ます。

しかし、息子の命 息子の健康 息子の未来を守らねばならない・・・と、いい嫁は捨てました。避難が理由で親類とも疎遠になり、やるせない思いはどこまでも尽きません。

ただ、こちらの支援センターのさまざまな支援活動のおかげで、同じく避難している家族の方々とお会いできたり、輪が広がり交流会で励まし合えたり、情報交換できたりし、本当にありがたく思っております。助け合う力がこれほど大きく、大切でありがたいものだ、この震災で学ぶこともたくさんありました。

...

...

今までの心配も薄れ、精神的に安堵することが出来、余裕が生ずるようになり、なんとか自分の趣味を活かしてみたい意欲が生じ、気分転換できる施設がないかなと...

...

入所した軽費老人ホームでは、健康教室、懇談会、脳の若返り勉強会など、計画が樹立されており、クラブ活動も、書道、陶芸、太極拳、詩吟、コーラス、カラオケ等、希望参加が出来、自主的に将棋、碁など楽しめるようになっていて、幸を得ることが増え、楽しみを悟ることが多くなり、充実した生活が送れるようになり、書道クラブで練習した書を文化祭に出稿したところ、入賞することが出来るようになりました。

...

シルク・ドゥ・ソレイユ ダイハツ『クーザ』ZENT 貸切 公演に参加して

日 時：12月9日（金）19:00～

場 所：名古屋ビッグトップ

避難者の参加者数：約500名

愛知県被災者支援センターにも、スポンサーのZENT様よりご招待を頂きました。

昔ながらのサーカスにつきもののテントで作られた会場は、外はとても寒かったけれど、中はお客さんが満員で、熱気一杯でした。

公演は前半と後半に分かれていましたが、前半は大勢のピエロが盛んに会場を盛り上げて、笑いを誘いました。後半は目いっぱいの見せ場

がありました。例えば、「ホイールオブデス」では、ぐるぐる回る10メートルはあろうかという大きなねずみ回しのようなものの内と外を、2人の男性が飛んだり跳ねたり縄跳びをしたりと、ものすごい迫力ではらはらしながら場面を見せてもらいました。他のスタッフも「感動した」やら、「恐かった」という感想がありました。

お子様連れの家族にとっても、とても楽しいご招待で、心底感激しただろうと想像できます。今までのご招待イベントの中で最高数の参加者があったのも、なるほどと実感した次第です。

なっ得! ～ 法テラス「東日本大震災 相談事例Q&A集」～

日本司法支援センター 法テラス「東日本大震災 相談事例 Q&A 集」

およびホームページのご案内

日本司法支援センター 法テラスが、震災に関する法的問題 Q & A をまとめた「～ 相談者の声から作った ～ 法テラス・東日本大震災 相談事例 Q&A 集」を作成しました。

法テラス・サポートダイヤル及び、弁護士会や司法書士会との共催電話相談に、実際に寄せられた相談事例を中心に編集したものです。この中には、173 件の「Q & A」が収録されています。賃貸借、建物、登記・登録、親族・相続、借入・ローン、契約、労働、損害賠償、税金、保険、各種支援制度、原発損害賠償など幅広い分野にわたっています。

この「Q & A」は法テラス・ホームページでも公開され、順次最新の Q & A 情報に更新されています。その Q & A コーナーは以下にあります。

<http://www.houterasu.or.jp/eastjapaneq/qaindex.html>

また冊子としてまとめられたものが、

http://www.houterasu.or.jp/houritsu_yougoshuu/yougo_chi/page00_00017.html

からダウンロードできます。(259 頁 1.5M)

(それぞれ、愛知県被災者支援センターのホームページからもリンクしています

<http://aichi-shien.net>)

行っ得! ～ イベント情報 ～

子育てつどいの広場 in 瑞穂区

子育てについての情報交換会を開催いたします! お気軽に遊びに来てください。

日 時：2月19日（日）10:30～14:00

場 所：ボラみみより情報ステーション

※ 切：2月15日（水）

申 込：愛知県被災者支援センター

（祝日を除く月曜から金曜 10:00～17:00）

TEL:052-954-6722

FAX:052-954-6993

E-mail:mousikomi@aichi-shien.net

（詳細は同封のチラシをご確認ください）

オリジナルひな人形で ひな祭り!

「交流の場」、「楽しめる場」としてイベントを開催します!! お気軽にご参加ください♪

日 時：2月25日（土）10:00～15:00（予定）

場 所：ジョイサウンド金山 2F パーティールーム

申 込：ブラザー工業株式会社

コーポレートコミュニケーション部

TEL:052-824-2311（平日 10～17 時）

E-mail:volunteer@brother.co.jp

問合せ：申込先に同じ

（詳細は同封のチラシをご確認ください）